

経営学ゼミナールゼミ合宿報告書

2018年8月30日

報告者：牧 良明

8月26日から28日にかけて、経営学ゼミナールの3年生6名参加のゼミ合宿を北海道で行った。合宿中のメインの活動は、27日に北海学園大学にて開催した4大学（茨城大学、大阪市立大学、北海学園大学、立命館大学）の研究報告会である。

以下が、各大学の報告タイトルである。

茨城大学：つくば市の行政改革、耕作放棄地の活用、茨城の観光について

大阪市立大学：日本のプロスポーツ

北海学園大学：ラッキーピエロについて、株式会社キングベークについて

立命館大学：日立の過去と未来、森精機を中心にIoTについて

て考える、近年のIT化による労働環境への先行研究と現状の比較、IoT技術と介護現場の未来、遺伝子組み換え食品に対する安全性の論争、中食市場を支える食品業界、アパレル産業における新たな試み、地場産業における持続的経営に向けた課題と展望



報告タイトルをみただけでも、いかに多くの分野に関しての報告があったかがわかると思われる。ゼミでの研究は基本的には自らの問題関心に従って行うものであるが、その分、研究に広がりをもたせることが難しい。4大学が一堂に会して、それぞれが異なった問題意識を報告しあうことは、それだけで問題関心の幅を広げることにつながる。

茨城大学の報告に対しては、様々な質問があがった。同じメンバー同士の議論では得られない刺激を得ることができた。特に、茨城大学の報告はその共通事項として茨城県にまつわるテーマ設定をしているため、自分たちにとっては当たり前に考えていることに対して改めて説明が必要であることなど、人に伝えることのむずかしさも実感できたのではないかなと思う。

研究交流をベースとした、大学・地域を越えた人間関係の構築という意味も含めて、4大学合同研究報告会を中心とした北海道ゼミ合宿は大変有意義なものであった。

